

水産研だより

- 1 水田魚道を設置したい方を探しています
- 2 天然記念物イタセンパラの親魚交換を行いました
- 3 溪流魚増殖手法研修会が開催されました



1 水田魚道を設置したい方を探しています

水田魚道とは、水田と農業排水路をつなぐ簡易な魚道のことです(図1)。フナ類、タモロコ、ナマズ、ドジョウなどといった魚類の産卵・成育の場として水田の機能を復元する役割が期待されています(図2)。以下のとおり、水田魚道の設置に適した水田の場所や条件がわかり始めてきています。

- (1) 岐阜県西南部(平野部)に対象魚種が多い
- (2) 標高の低い場所(海拔15m以下)に対象魚種が多い
- (3) 大きな排水路わきの水田に取り付けると良い
- (4) 稲作中、水田魚道への通水が容易であると良い



飛騨市古川
千鳥X型(波付U型)



下呂市萩原
千鳥X型(波付U型)



可児市今
千鳥X型(波付U型)



岐阜市雛倉
波付丸型



海津市馬目
千鳥X型(波付U型)

図1 県内に設置された水田魚道の例



図2 水田魚道を設置した水田で繁殖・成育したタモロコ(中央)とドジョウ(右)。可児市の例。

岐阜県では、多面的機能支払交付金を活用している活動組織の方々や水田まわりの生き物に関心のある水田農業者の方々に水田魚道の設置に関する技術支援をおこなっています。上記の条件に当てはまる水田に水田魚道を設置したい方は、当研究所までご連絡ください。

(生態環境部 米倉)

2 天然記念物イタセンパラの親魚交換を行いました

当所では、昨年9月に“世界淡水魚園水族館アクアト・ぎふ”から木曽川産イタセンパラ成魚50尾を導入し、人為的な環境下で保護繁殖させて野生復帰に備える生息域外保全に取り組んでいます。今年5月に初めてイタセンパラの繁殖に成功し、今秋の産卵期には1,000個体以上が成熟を迎えました。生息域外保全では、将来の野生復帰に備え、遺伝的な多様性が消失しないようにより多くの親魚を用いて繁殖を行う必要があります。そのためには、より多くの個体を維持しなければならず、また、同様な取り組みを行う複数の施設間で、定期的に親魚(各施設で両親が違う)の交換を行うことがより効果的です。

イタセンパラは、木曽川以外には、大阪府の淀川水系と富山県氷見市の一部河川でしか生息が確認されておらず、これらの地域でも、本来の生息域内での保全活動に合わせて、保護池を設けるなどの生息域外での保全活動が積極的に進められています。

(生態環境部 後藤)



3 溪流魚増殖手法研修会が開催されました

高山市荘川町の荘川総合センターにおいて「溪流魚増殖手法研修会」が開催されました。今年の研修会は、岐阜県と岐阜県漁業協同組合連合会との共催で行われました。県水産振興室からは増殖指示数量への新增殖手法の算入方法が説明され、当研究所からは発眼卵埋設放流、親魚放流、産卵場造成の方法の説明の後、会場近くの町屋川で発眼卵埋設放流や産卵場造成の作業の実演を行いました。さらに、河川への定着性が高い半野生魚(雄親:野生魚、雌親:養殖魚)生産に向けた課題として、野生の雄親の供給体制など、今後の普及に向けた課題の解決方法についての提案を行いました。

さらに、高原川漁業協同組合からは、ヤマメ親魚放流の取り組みについて、より実践的で詳しい説明がなされました。溪流魚の増殖は、手法の多様化が進んでおり、研修会でも闊達な議論が交わされました。

(下呂支所 大原)

